

◆2019年度 ゆきとどいた教育を求める署名活動

2018年6月に福岡県の会を解散し、2年目の今年は、福岡県議会に、ふくおか教育を考える会協議会単独で請願（署名なし）をしました。高瀬菜穂子県議・立川由美県議が紹介議員を引き受けてくれました。全会派の県議に懇談を申し込み、子どもにとりまく状況を丁寧に説明しました。

全国署名は、国会議員に懇談しました。原田義明衆議院議員・稲富修二衆議院議員・古賀ゆきひと参議院議員の3名が紹介議員を引き受けてくれました。議員事務所に私たちが集めた福岡県の署名を送りました。11月には県教育委員会と福岡県の環境について懇談しました。

今年度も全国署名企画会議に5回参加。2月21日（金）「ゆきとどいた教育を求める全国署名」では、全国で取り組んできた署名を参議院会館で44万1490筆分を国会に提出、公立・私学を合わせて480万5205筆。

***** 2019年度 議員懇談 *****

8月2日 原竹岩海県議（民主県政県議団）

「不登校問題の一つとして感じたことは、例えばいじめの問題。子どもにとっては命にかかわる問題でもあり、政治家、教育者はきちんと受け止めなければならないと強く感じました。」



8月2日 井上博隆県議（民主県政県議団）

「35人以下学級は前進していかなくてはいけない課題です。先生の労働環境を整えていくこと、働き方改革、若い人たちが先生になりたいような環境整備に力を入れていきます。」

8月2日 平井一三県議（自民党県議団）

「子どもが真ん中の社会づくりのために、家庭教育、地域教育、学校教育がそれぞれの役割を果たしていき連携が取れるよう、はかっています。」



8月5日 中牟田伸二県議（自民党県議団）

「これから一番大事なのは教育。教育は今から変化・進化していきましょうし前向きにとらえる必要がある。みなさんとともに一つ一つの問題解決をしていきたい。」

8月7日 加地邦雄県議（自民党県議団）

ふくおか教育を考える会のように、自分も「アジア太平洋子ども会議」に立ち上げから関わって30年になる。長く継続していくことは大変ではあるが、一緒に頑張っていきましょう



8月8日 渡辺美穂県議（民主県政県議団）

「一気に35人以下学級は難しいかもしれないが、先生の正規率を上げたり、どうやって先生になりたい人を増やすかなど、いろいろ考えていきたい。」



8月18日 原田義昭衆議院議員（自民党）

「少人数学級や不登校の問題は構造的な問題はたくさんあるけれど、私たち国と県が力を合わせて、短期間で必ず解決します。国の文科省初等教育長にも相談に来てください。」

8月19日 大田京子県議（民主県政県議団）

常に政治を動かすのは市民の声だ。現場の声を実感しました。その声を県政に反映させます。



8月23日

高瀬菜穂子県議
立川由美県議
（共産党県議団）

8月26日

井上順吾県議
（自民党県議団）



8月28日 樋口明県議（自民党県議団）
（写真2018）

子どもは国の宝ですから、国の宝である子ども達が元気に明るく成長していくことが我々の願い。実現していくことが大事。



8月28日

後藤香織県議（民主県政県議団）
個人的には二人担任制がいい、35人学級にも賛成だが、会派で動くので。

12月10日 古川忠県議
（写真2018）



2月9日

田村貴昭衆議院議員
（共産党）



2月21日(国会にて)
古賀之仁参議院議員（立憲民主党）